

札幌東区社保協

ニュース 第7号

私たちの周りで起こっていること

定期総会△△で交流

守る会の松崎さんから、生活保護の「移送の給付の手続き」について報告がありました。厚生労働省社会・援護局長通知により「移送の給付」が大幅に改定されました。札幌市でも「移送の給付の手続き」を定め4月～6月を是正期間として順次是正をするとして指導が強まっています。月通院分から交通費の支給要件が変わります」との通知が出されています。左の文章は東区から中央病院と札幌病院に通院をしていた患者さんの保護却下通知書です。

保護（変更）却下通知書

平成 20年 8月 11日付で申請された生活保護法による保護の設置については、下記の理由により却下します。

記

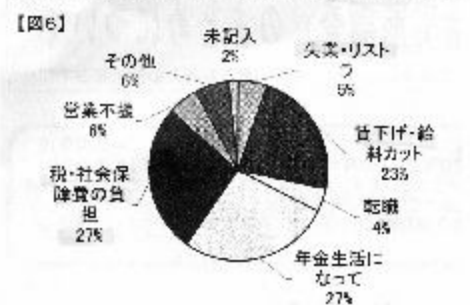
1. 却下の理由 下記の理由による

あなたから勤務医札幌病院への通院移送費について保護変更申請がありました。が（平成20年8月11日付札幌東区第250878号）、あなたは勤務医中央病院にも通院しており、地至協札幌病院に通院することについて、特別な事情があるものと判断できなかったため、申請を却下します。

北海道の実態調査

新日本婦人の渡辺路絵さんからは、会では毎年「生活実態調査」を行なっています。08年は全道六五地域二千九四人の会員・読者からの回答が寄せられました。い年前と比べ年収の増減は？の質問では65%の方が収入減となったと回答。

問6、問5で「減った」の解答者に質問、収入減の主な理由

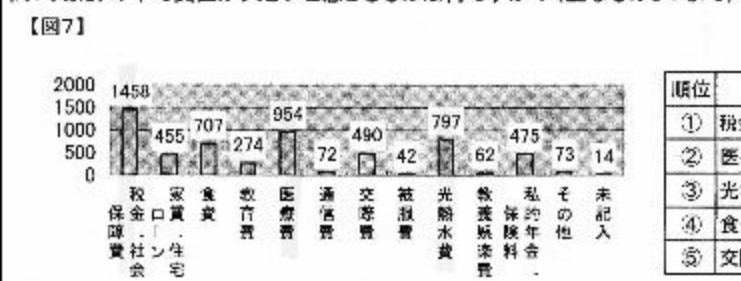


最も多かったのは「税・社会保障の負担で」年々生活になつて」で全体の54%を占めた。

家計の中で負担が大きいと感じるものは？の問いには、最も多かったのは「税金・社会保障費」で25%、「いいで医療」「光熱水費」の順との答えが多かった。

家計の中で削っている項目は、被服費、食費、教養娯楽費、交際費などで6割を占めた。生活の中で心配な事は？の問いには、「病氣・健康」「老後」「家計の赤字」「仕事・雇用」

問7、家計の中で負担が大きいと感じるものは何ですか？(主なもの3つまで)



「日頃から節約に心がけているがもうこれ以上節約の仕様がな」との切実な声も...



介護職員を増やして

動医協在宅のケアマネの森枝さんからは、この間取り組みが始まった介護ウェーブの報告。7月24日に北海道連絡会が学習会を行なった。百七十人の参加で鹿児島大学の伊藤周平教授が「09年度介護報酬改定の動向と介護保険の課題」と題して学習講演を行なった。「介護保険制度の抜本的見直しもなく、介護労働者の労働条件と人材不足は放置されたまま」「施設関係者や介護労働者の運動の広がりや、次期総選挙で介護保険の抜本的見直しを争点にしていくな」と述べられた。日々の業務から介護サービスの問題点について、利用者さんの立場に立っていない制度である。サービスを利用しない事が自立である。など考え方がおかしい所がある。ダンダンちゃんリ、ツチを作った。毎週大通りでの宣伝署名活動も行なっています。との発言がされた。

相談事例

年金者組合の宮坂さんからは、生活保護の方で転居をしたがNHKの受信料免除になつていないに、集金者が来てとにかく払ってもらわないと困るの一点張りで困つたと相談。また、うつ病になり入院して解雇になってしまい健康保険が使えなくなり生保の申請をしたが保険の空白期間が出来き手続きに苦労をしたケースの報告がされた。

無料・低額制度の積極的な活用を

中央病院医療福祉課の田中さんからは、4月から中央病院で12件の適応事例があった無料・低額診療制度について報告があった。医療費の不足分を補うような適応事例が増えていく。一人でがんばって医療費を負担していたがなんらかの理由で支払いが困難になつた事例がある。医療費の負担が高いので症状があつても受診を我慢している。まずは医療につなげる事は必要で相談活動に力を入れた。鎌田事務次長から補足があり、「医療は費用がかかるからといってサービスをえらべない。この間、移送費の問題もあるが生保の受診者や外来の受診者が減少傾向です。受診抑制が効いています。北海道動医協としては、命を守る運動として無料・低額診療を積極的に社会的役割として強化していきます。紹介や活用をお願いします」と発言があった。

ご相談下さい
医療費の減額・免除
制度があります
北海道動医協

第10回定期総会を開催

8月29日東区社保協の第10回定期総会が各団体から16名の参加で開催されました。憲法25に基づいて、貧困に陥っても、病気になるっても、失業しても、障害を負っても、高齢になっても、どのような状態になってもすべての人に「健康で文化的な最低限度の生活」を権利として保障する制度が社会保

障です。政府は、給付の削減と負担増で国民の生活不安（特に老後の生活不安）を増幅させるという本末転倒の事態を生み出しています。私たちは、この現実と向き合い、規約に基づき月一回の運営委員会の開催を基本に、加盟団体の粘り強い活動をやってきました。また、生活と健康を守る会が主体となって取

り組んでいる国保・介護110番運動を毎月継続的に実施してその改善に努力してきました。

東区社保協の主な活動

- 定例会議毎月第2木曜日11日開催
- 年金者組合と協同した区役所前での宣伝行動を実施
- 東区福祉部・保険課・保護課との対面交渉（11月27日：43名参加）
- 後期高齢者医療中止・撤回の連絡会を結成。リー宣伝・署名行動をこの間3回実施
- 各集会への参加「ど

うなるどうする後期高齢者医療制度」市民シンポジウム（9月1日）生存権裁判を支援する北海道の会結成総会（10月20日）「後期高齢者医療制度」怒りの緊急道民集会（11月14日）医師不足を考える医療者と道民の集い：本田宏氏講演（11月18日）国保問題全道交流会（12月1日）新春情勢学習会（激動の国会報告、たまたかの展望について）（1月16日）「後期高齢者医療制度」怒りの1000人全道民集会（2月2

日）東区革新総主催：「高齢者医療を語るつどい」（3月22日）生存権を考えるシンポジウム、貧困、生活保護、母子家庭（6月7日）「後期高齢者医療制度」怒りの道民集会（5月31日）札幌市社保協総会へ参加08年6月26日

- 国保110番の取り組み（毎月末の木曜日に実施）東区社保協ニュースを3回発行した
- 7月26日：後期高齢者医療制度中止・撤回のシンポジウムを開催
- 「反貧困」の学習相談活動を
- 後期高齢者医療制度廃止
- 介護保険報酬改訂に向けた税金・国保介護・後期高齢者医療制度など住民負担軽減の取り組み
- 要求で対面交渉を計画
- 組織強化

最後に、今年度の役員体制を確認して終了した。

「後期医療」への怒り マスコミをも動かす

札幌東区でシンポ

日本共産党札幌東区地区委員会、東区社保協、東区生活と健康を守る会、新日本婦人の会東支部、東区年金者組合が共同して二十六日、後期高齢者医療制度の廃止を求めるシンポジウムを開き、八十四人が参加しました。



社保協の甲斐勇事務局長、国保・介護・後期高齢者一〇番事務局長（東区生活と健康を守る会事務局長）の松崎マサ子氏がバネリスで登場しました。伊古田氏は、国民負

甲斐氏は、制度への怒りがかつてなく広がっており、マスコミをも動かす状況になっていることや、医師会も反対声明をあげ、たまたかの屋簷について強調。継続審議になっている廃止法案を衆議院で審議することを求めた署名を緊急に集めるよう呼びかけました。

松崎氏は、一〇番での相談内容も紹介し、この制度で高齢者にとだけだけの負担が押しつけられているかを詳しく説明しました。

司会の太田秀子札幌市議候補らが決議案を提起、確認しました。

札幌東区地区と民主団体が共同で開いたシンポジウムは26日、札幌市東区

後期高齢者医療制度の廃止を求める決議

4月から実施された後期高齢者医療制度は、かつてない大きな怒りと不安を国民の高齢者のあいだに巻き起こしました。

「年よりは早く死ぬというのか」、「焼捨て山に行けというのか」。75歳という年齢をくぎっての不当な差別医療、すべての高齢者から有無をいわず年金天引きで取り立てる保険料など、高齢者のいのちと尊厳をふみにじる制度の内容が明らかになるにつれ、急速に反対の世論が広がっています。

（世論調査で同制度の廃止について「賛成」が56%、「反対」30%（08.6.16毎日））
（制度の抜本見直し、中止・撤回等を求める地方議会の意見書採択が、632議会になっている（07.10現在））

政府は、反対の声が広がる中、6月12日保険料負担軽減の手直しを打ち出しましたが、受けられる医療を年齢で差別する制度は世界中でどこにもありません。

様々な運動の結果、4野党共同で廃止法案が提出され6月6日には参議院で可決されました。残念ながら衆議院では、審議されることなく通常国会がおわり現在、継続審議になっています。私たちは、臨時国会で速やかに審議し採択する事を強く求めます。

制度の仕組みが「高齢者の医療費抑制」にある以上、高齢者のくらしを追い詰め、尊厳を否定するこの制度は、廃止するしかありません。

7月26日開催の東区後期高齢者医療制度中止・撤回シンポジウムに参加した83名の総意で決議します。